



# 眼瞼炎がん けん えんってなに?



どんな病気?

何らかの原因でまぶたに炎症が起こる病気。

「眼瞼」とは「まぶた」のことで、まつげの根元や上下まぶたの内側にあるマイボーム腺(油分を分泌する脂腺)などを含めた「まぶた」に起きる炎症を指します。細菌や真菌の感染、マイボーム腺が詰まることによる炎症など、さまざまな原因から起こります。

おもな原因

細菌感染や脂腺のトラブルなどが主な原因になります。

### 1 感染症

細菌や真菌などの感染が原因で、「ものもらい」になることも

目のまわりが不衛生だったり、傷ができていたりすることで、まぶたやまぶたの縁に細菌や真菌(カビ)などの感染が起こります。まぶた内側のマイボーム腺に感染し、「ものもらい(麦粒腫)」になることも。また、寄生虫感染のケースもあります。

かかりやすい犬

- 免疫力が低下している
- 免疫力が内分泌疾患の犬やシニア犬
- 未熟な子犬 など

### 2 アレルギー

食べ物や薬剤などで起こります

食物アレルギーだけでなく、目薬や塗り薬、シャンプー剤など何らかの薬剤に反応して起こることもあります。まれですが、ワクチン接種後(数時間から2日)にまぶたが腫れてしまうことも。

おもな症状

- まぶたの腫れや赤み  
片側だけ腫れている、腫れは一部分だけなど、腫れの出方はさまざまです
- かゆみ  
後ろ足で目の周辺をかいたり、床やソファの角などに顔をこすりつけたりすることも
- 目のまわりの脱毛  
目のまわりの毛が抜けて薄くなる症状もよく見られます
- 傷や出血、膿  
まぶたに傷や出血が見られたり、膿んでいたりすることも
- 痛み  
目を開けにくそうにする、目のまわりを触ると嫌がるなどの様子が見られます など

検査と治療法

### まぶたの観察、各種検査で原因を調べます

まず、まぶたに腫れや脱毛がないか、マイボーム腺が詰まっているかなどを目視で確認。問診で、目薬や塗り薬など薬剤の使用、フードの変更などを確認し、アレルギーの可能性も考えます。必要に応じ、細菌検査、まぶたの寄生虫を調べる搔把検査、まぶたの一部を切除して検査する病理検査などを行います。

治療は、細菌や真菌、寄生虫感染が原因なら、抗菌薬や抗真菌薬、駆虫薬などで治療します。アレルギーには、ステロイド剤や抗アレルギー薬、免疫介在性疾患には免疫抑制剤やステロイド剤などを使います。マイボーム腺の分泌物の詰まりが原因なら、それをかき出す外科手術を行うこともあります。

予防

目やニで汚れたままにしてしまうと、細菌や真菌に感染しやすくなります。目のまわりを清潔に保つことが予防になるため、コットンややわらかい布などで汚れを拭き取ってあげましょう。



### 3 免疫介在性疾患

原因は不明なものなりやすい犬種があります

本来、自分を守るために働く免疫システムが、正常な細胞や組織を攻撃してしまい、まぶたに炎症を引き起こします。根本的な原因はわかっていません。

おもな犬種

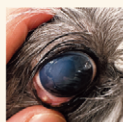
- ジャーマン・シェパード・ドッグ
- ミニチュア・ダックスフンド
- トイ・プードル など



### 4 マイボーム腺の詰まり

油分を排出できずにたまり、炎症が起こります

マイボーム腺は、上下まぶたの内側にある脂腺のひとつ。目の表面の乾きを防ぐために、油分を出しています。この油分が排出できずにたまり、炎症が起こりやすくなります(霰粒腫)。



かかりやすい犬

- 短頭種
- 中高齢の犬

犬種や年齢を問わず、どんな犬でもなりますが、原因によっては発症しやすい犬が知られています。また、原因によって治療が異なるため、原因を突き止めることが大事です。

いぬに多い病気、そこが知りたい! は「いぬのきもち」で連載中!

●こちらは、掲載した記事を再編集したものです。

アニコム損保ご契約者がマイページから定期購読を申込みと

# 2号(2ヶ月分)無料!!